

Epistula

大学広報誌「エピストゥラ」



大分県立
芸術文化
短期大学
OITA
PREFECTURAL
COLLEGE OF
ARTS
AND CULTURE

vol.
50
SPRING
2018

INFORMATION

キャンパス整備情報



平成32年度の完成を目指し始まったキャンパス整備事業。平成29年度は11月に「芸術デザイン棟」が完成し、平成30年度7月に完成予定の図書館の新築工事が始まっています。



正門から新音楽ホール棟に続くシンボルロードには、正門前の樹齢100年とも言われる桜の木が残ることになりました。学生や地域の皆さんに愛され、新しいキャンパスでも満開の花を咲かせ続けてくれることを願っています。

芸短オープンカレッジと公開授業が始まります

2018年度前期の「芸短オープンカレッジ」と「公開授業」の受講生を募集します。芸短オープンカレッジは、趣味の講座やビジネススキルアップを目指す講座など、芸術系と人文系を併設した本学ならではの個性的な講座をご用意しています。公開授業は、大学の講義を皆さんに公開して、本学学生と机を並べて学んでいただく制度です。詳細は、本学HP・募集チラシをご覧ください。



●パソコン実践力アップ講座 ワープロコース(Word)

●版画講座 A・B

お問い合わせ 「芸短オープンカレッジ」「公開授業」担当 (TEL:097-545-0542)まで、お気軽にお電話ください。



大分県立芸術文化短期大学の公式Facebookでは、本学が主催するイベント・展覧会等のお知らせをはじめ、キャンパス内の様子や学生たちが行うさまざまな活動について報告しています。また、サークルやイベント、研究室等でもFacebookを立ち上げています。



大分県立芸術文化短期大学

大分県立芸術文化短期大学 <https://www.oita-pjc.ac.jp>

芸文短大 検索



美術科ビジュアルデザインコース



美術科メディアデザインコース



美術科プロダクトデザインコース



音楽科



国際総合学科



情報コミュニケーション学科

EVENT CALENDAR

3月 MARCH

- 15日(木) 音楽科卒業演奏会
- 16日(金) 専攻科音楽専攻修了演奏会
- 20日(火) 卒業式・修了式

4月 APRIL

- 5日(木) 入学式
- 6日(金)～10日(火) 新入生オリエンテーション
- 11日(水) 前期授業開始

*各イベントは変更になる場合があります。

編集後記

通巻50号となる広報誌「Epistula」お楽しみいただけたでしょうか?特集の退職される先生方のメッセージはメールにて原稿を提出していただきました。原稿はWordのデータにすぎないのですが、まるで手書きのようなあなたが感じられる文章で、それぞれの人柄が伝わってくるものでした。

広報室からみなさまへ。来年度も芸文短大の“いま”をお伝えしていきます。

Answer 3

目指す大学には浪人でやっと入りましたが、思ったような大学ではなく、大学の課題とは別に自分でいろいろ楽譜を取り寄せて新しい作品を書く研究を始めました。同時に作曲のグループを結成し、学外で作品演奏会を開いたりしていました。早く卒業して作曲家として自立したい気持ちでいっぱい、学生生活を楽しめたのは入学後半年くらいだったと思います。周囲に溶け込めず、かといって将来の自分も思い描げずといった学生時代だったと思います。

Answer 4

これから自分のしたいことも、なりたい自分も、なかなかつかめないあせりや苦しさはみんなあると思います。いろいろな人と知り合つたり何か行動してはじめて自分のことがわかってくるだと思います。最終的には周囲に惑わされない、自分の本当に幸せな満ち足りた自分だけの人生を、自分で少しづつ作って行くことです。自分の大切な気持は一番失いやすく消えやすく、だからこそ強い気持ちで守っていかなくてはなりません。

Answer 1 平成元年1989年です。

Answer 2

自身の専門の作曲ではないソルフェージュで採用していただきましたが、作曲コースができ、とにかく作曲の学生を集めてコースを軌道に乗せなくてはと各方面に手紙を書いたり、作曲をしている高校生に会いに行ったり、コンクールに出かけ行って高校生に声をかけたり動き回ったのを覚えています。初年度の学生(1人でした)が専攻科に受かり、学士授与機構で学士を取られた時が教員としては一番うれしかった思い出です。あとは、短大卒業後音楽のプロとして東京で一線で頑張っている学生と一緒に仕事ができる機会があるときが本当に楽しいですね。



1990年の卒業アルバムより、着任当時の河野教授。クールな眼差しは変わらず。



音楽科
河野敦朗教授

東京都出身。専門は作曲、現代音楽。「第33回国民文化祭おおいた2018 第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」開会式プロlogueの作曲・編曲を手がける。

Answer 3

大学紛争がピークを過ぎた頃、大学に入りました。当時、全国に公害が拡がり、何のための学問か、何のために学ぶのかという問いをいつも突きつけられていきました。社会学を学べば何かわかるのではないかと、わりと素直に考えていました。一番うれしかったのは、大学の先生たちが自宅に招いてくれたり、稚拙な議論にものごんつきあってくれたことです。こんな自由な世界があるんだということを教えてもらいました。学問も人がすることです。大きな社会の流れを理解することも所詮は人ととの関係の中で進んでいくことです。いろんな人のおかげで何かが少しはわかってきた気がします。

Answer 4

面倒でも何か将来自分のためになるのではないかと思ったら、どんどんやってみてください。なんか関心があることがあつたらともかくやってみてください。すぐには役立たないかもしれないけれど、いずれ何かの役に立つ。みんなの長い一生を豊かにするものがこの学校にはたくさんあります。いろんな地域活動にも参加してください。自分の物語を探して見つけて語ってください。

Answer 1

鹿児島市の短大で教えていましたが、平成4年人文系学科開設とともに赴任しました。

Answer 2

2002(平成14)年FIFAワールドカップ日韓共同開催のとき、ガレリア竹町で大友宗麟時代にタイムスリップしてみんなで扮装、大分青年会議所と一緒に歓迎セレモニーを行いました。当時、サッカーの試合で大暴れする「フーリガン」が心配されていて、私も役に立たない用心棒で参加しました。この頃から、七タブロードウェイや清正公二十三夜祭に参加するようになりました。「アートスネーク」でギネス記録達成したことなど思い出に残っています。サービスラーニングで、地域の人たちに喜ばれ、何よりも学生のみんながいきいきと成長していく様子を見ることができ、本当に良かったと思います。



1月の最終講義での一幕。吉良教授の研究を取り上げた1986年の報道番組の映像に、当時の姿が。まさしく貴重映像!



情報コミュニケーション学科
吉良伸一教授

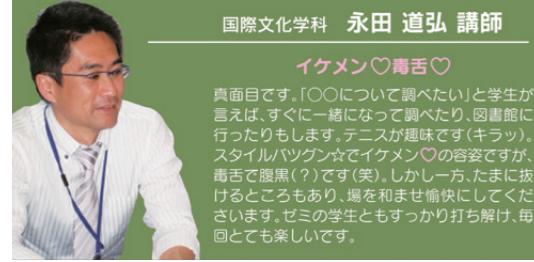
山口県岩国市出身。専門は社会学、サービスラーニングといえば吉良教授。人と自然を愛し、写真の腕はプロ並み。

新任教員紹介

国際文化学科 永田 道弘 講師

イケメン♡毒舌♡

真面目です。「〇〇について調べたい」と学生が言えば、すぐに一緒に調べたり、図書館に行ったりもします。テニスが趣味です(キラッ)、スタイルパンツ☆でイケメン♡の姿ですが、毒舌で腹黒(?)です(笑)。しかし一方で、たまに抜けるところもあり、場を和ませ愉快にしてくださいます。ゼミの学生どもすっかり打ち解け、毎回とても楽しいです。



2009年発行の本誌16号に登場した、本学着任直後の永田准教授。学生からはそのイケメンぶりが絶賛されている。

Answer 4

みなさま色々な思いを抱えて芸文短大に入ってきたと思っていますが、充実した学生時代にする秘訣は「愛校」精神を持つことです。不満に思うことがあっても、より良い環境にすべく自分から積極的に動いてください。1ミリでも物事が動かすことができたら、それは大勝利。

Answer 1

9年前。2009年の4月着任です。

Answer 2

思い出深いことばかりで、正直、選ぶのが大変です。あえて言えば、毎年行っていたフェリーを使っての大坂への卒業旅行です。今年は、残念ながら時間がなくて別府になってしまいましたが、温泉に入った後のダーツとか卓球とか、The温泉旅行を満喫できました。個人的には映画を「発見」できただけです。大分市にあるシネマ5のおかげで、この年になって新しい世界を発見できました。しかし、全ての映画を見るに人生はあまりに短すぎます…。



国際総合学科
永田道弘准教授

静岡県出身。茶畠と富士山を身近に育つ。専門は20世紀のフランス文学と映画。その軽やかな言動は時にフランス帰りを彷彿させる。

退職される先生方からのメッセージ

この3月をもって、芸文短大を5名の先生が退職されます。先生方の退職を記念し、お別れの言葉をいただきました。メッセージと一緒に過去の秘蔵写真もご提供いただきました。つい胸が熱くなるようなメッセージと若々しいお姿をぜひご覧ください!

Question 1 芸文短大へ着任したのは何年ですか?

Question 2 芸文短大での教育・研究を振り返って、最も思い出に残るエピソードをおしえてください。

Question 3 学生時代はどのような学生でしたか?

Question 4 最後に、芸文短大の学生にエールをお願いします!



Answer 1

昭和62年です。昭和の最後の頃ですね。

Answer 2

赴任した当時は、美術科の新入生全員で夏休みに研修旅行に行っていました。この旅行が赴任直後ということもあって思い出に残っています。当時の美術科は、美術専攻25名、デザイン専攻25名、生活芸術専攻75名の総勢125名で、この大人数の学生とともに貸切バス3台を連ねて京都・奈良のお寺を中心に古美術を一週間かけて研修し、日本の建築や庭園、彫刻の素晴らしさを体感しました。バスで京都市内を移動中に若い舞妓さんを学生がバスの窓越しに見つけて「素敵!これも日本の美!」と叫んでいたので、旅行会社の添乗員さんにお願いして次の日の夕方、出勤前の舞妓さんに旅館まで来もらって、学生の前で日本舞踊を舞ってもらった思い出があります。



美術科
根之木英二教授

大分県津久見市出身。美術科デザイン専攻ビジュアルデザインコースにて長年教鞭を執る。学外での社会活動も数多く務めている。

Answer 3

中学の時に、好きなことをやっていると先生から「高校へ行ったら好きなことやれ」と言われ、高校に進学すると「好きなことは大学でやるもんだ」と言われました。大学に入つてからは、晴れて誰はかかることなく、好きなこと・自分の興味のおもむくままに過ごしました。先生からすると、扱いにくい学生だったかもしれません、当時の藝術系はそういうことを許容する伝統がありました(と思っていたのは自分だけかもしれません)。



平成2年、天草にて古楽器「ヴィオラ・ダ・ガンバ」を演奏する小川教授。本人曰く「別人28号」。

Answer 1 1989年4月です。

Answer 2

二度留学をさせていただいたことです。一度目は1996年、公立短期大学協会の奨学金で、アメリカのハーヴァード大学へ、二度目は2000年に大分県の在外研修の奨学金でスペインに行きました。ハーヴァードでは大学院のゼミに参加して、日本は大きく異なる、合理的で密度の高い授業の進め方、発表の仕方に直に触れることができたのは得難い経験でした。当時まだ本学では実施していないシラバスを実施しており、帰国して翌年から自分の授業に取り入れました。スペインでは現在の自分の研究テーマである古楽器ビウラを制作する講習会に参加することができました。この2つの経験がなければ今の自分はなかったといつても過言ではなく、関係機関・関係者の方々には深く感謝しています。



音楽科
小川伊作教授

大阪府出身。音楽科理論コースを28年間にわたり率引。「大分古楽研究会」の代表を務め、学内外での演奏活動も積極的に行っている。

さまざまな国際交流や魅力ある講義を実施

国際総合学科では毎年様々な国際交流が図られています。外部講師や国際総合学科教員によるユニークな講義も多数実施しました。

民間学童保育「あすらん」のみなさんと交流授業



7月25日(火)、情報コミュニケーション学科の安倍尚紀専任講師の授業「現代社会論」に民間学童保育「あすらん」の生徒さんたちをお招きし、交流授業を実施しました。小学生28名と引率の先生方4名にお越しいただき、「現代社会論」受講者140名と合わせて170名でワークショップを行いました。28のグループに分かれ、グループ代表者が引いたカードに描かれた動物をどうジェスチャーで表現するか、というネイチャーゲーム「動物ジェスチャー」を実施。さまざまな質問を交わし、積極的にコミュニケーションを取る姿が印象的でした。本学の学生たちが子どもたちとのコミュニケーションが上手なことにも驚きました。情報コミュニケーション学科での学びを実践できた交流授業となりました。

「地域活動フォーラム～吉良伸一教授退職記念」を開催しました



12月16日(土)、「地域活動フォーラム～吉良伸一教授退職記念～」を開催しました。この「地域活動フォーラム」は学んだことを地域で活かし、地域で活動する事で学びの意味を考える取り組み“サービスラーニング”で行ってきた活動を報告するものです。今回はサービスラーニング開始時から指導を担当し3月に退職される情報コミュニケーション学科吉良伸一教授の退職も記念しての開催となり、この日は卒業生の方々、企業・団体の方々にも聴講に訪れていただきました。

フォーラムの最後には会場に訪れた卒業生や、かつての実習助手のみなさんからたくさんの花束が贈呈され、吉良教授への感謝を伝えました。長年に渡り本学を支えてくださった吉良教授。今後もますますご活躍されることと思います。

Cover of Epistula vol.49



創作音楽劇「Antonio~ViViD」の生涯～」キャストのみなさんに登場していただきました。4学科の学生がそれぞれの特徴を活かし、アントニオ・ヴィヴァルディの生涯を優雅に表現しました。



ポートフォリオ発表会を開催

情報コミュニケーション学科「社会人育成プログラム」の一環として、7月18日(火)、「ポートフォリオ発表会」を開催しました。情報コミュニケーション学科では、入学後に学科生全員が「ポートフォリオ」という記録ファイルを作っています。これは、個人個人の学業・活動・資格・特技などの記録を一冊のファイルにつづっていくという「在学期間中のパーソナルヒストリーファイル」です。

発表会の狙いは、“自己PR能力の向上”と“質問能力の向上”。自分のことをきちんと説明し、相手とのコミュニケーションを適切にとる能力は、今後の就職・進学といった進路決定にあたっての活動にもぜひとも必要な能力です。

自己PRでは、各自の得意技を披露した発表、地域活動やサークル活動の成果報告などが見られました。資格証明書やイラストの実物を見せたり、得意料理や得意なスポーツを写真で説明したりという様子も見られました。



情報元と連携した活動の数々で情報コミュニケーション力さらに磨く



サービスラーニングをはじめ、学内外での活躍が光る情報コミュニケーション学科。

イギリス人から見た大分県

5月23日(火)、「大分の観光と文化」にイギリス・ロンドン出身の大分県国際交流員のミリアム・スターリングさんを講師にお招きし、「イギリス人の眼から見た大分県」をテーマに大分県の魅力を語っていただきました。



「日本の伝統文化」で茶道を体験



7月25日(火)、「日本の伝統文化」に茶道サークルで指導を担当されている久々宮宗泰先生を講師に、茶道の体験をしました。近年流行しているという立札式(テーブルと椅子でお茶を楽しむスタイル)のお手前を実演しながら解説していただきました。



ボルネオで植林活動

NPO法人「緑の大地の会」が主催するボルネオでの植林研修が、8月17日(木)～8月21日(月)に行われ、本学国際総合学科1年生5名が参加しました。研修では、ボルネオ島にあるマレーシア、サラワク州での共同植林活動の他、現地でのホームステイを体験し、地球環境問題だけでなく異文化理解という観点からも、学生が将来に向けて行動する動機付けになったことでしょう。



中国・江漢大学からの留学生

4月に本学と交流協定を結んでいる中国武漢市の江漢大学より留学生5名がやってきました。来日直後には学長室にて教職員と懇談し、親睦を深めました。

タイ人留学生と交流授業



7月、大木正明教授のゼミの学生が、大分工業高等専門学校にタイのカセサート大学からインターンシップで来日中の留学生3名と交流授業を行いました。OPAMにて「ジブリの大博覧会」の鑑賞をしながら、英語での意見交換や会話を楽しみました。



芸短オープンカレッジ「ハワイ文化講座」

9月19日(火)、城田愛准教授が「ハワイ文化講座Part 2」を開催。20年以上にわたるハワイ調査から得た知識やグッズをもちながら、ハワイについて詳しく、多角的に考察しました。



海外選手とTALK SHOW!



10月27日(金)、「多文化理解」公開講義で大分国際車いすマラソン大会「海外選手とTALK SHOW」を開催しました。国内外から車いすマラソンの一流選手をゲストに、ジュリー・ヌートバー准教授の通訳のもと、ホットなトークショーを開催しました。



ヨーロッパ講座「映画で見るフランス」

11月16日(木)、芸短オープンカレッジの人気講座のひとつ「ヨーロッパ講座～映画で見るフランス」を開催。第3回は永田道弘准教授がフランスについてレクチャー。講座のあとは当日解禁したボジョレー・ヌーヴォーを片手に、軽食とともに講座内で紹介された映画を鑑賞。参加者の皆さんには、ひとときのヨーロッパ気分を楽しんでいただけたようでした。

Cover of Epistula vol.47



創作音楽劇「Antonio~ViViD」の生涯～」キャストのみなさんに登場していただきました。4学科の学生がそれぞれの特徴を活かし、アントニオ・ヴィヴァルディの生涯を優雅に表現しました。



韓国・南海大学との交流会を開催しました

11月10日(金)、韓国の慶尚南道立南海大学との交流会を開催しました。南海大学のみなさんは以前も研修旅行で本学を訪れ、今回で3回目の訪問となりました。

本学ダンスサークルによるパフォーマンスでは、K-POPアーティストの曲で大いに盛り上がり、南海大学の学生と一緒に掛け声や手拍子でステージを盛り上げました。南海大学のみなさんは音楽に合わせたカクテルパフォーマンスを披露してくれました。

前回の訪問から親睦を深め、久しぶりの再会を楽しんでいる学生たちもあり、本学と南海大学との交流が、回を重ねるごとに充実したものになっていることを実感しました。これからもこの交流のさらなる継続と発展が期待されます。

Cover of Epistula vol.47



新年度1号目は江漢大学からの留学生のみなさんが「『武汉』私たちは良い友達です『大分』」のメッセージとともに、さわやかに表紙を飾ってくれました!きっと本学での留学体験を今後に活かしてくれることでしょう。

第2回大分合同新聞広告賞 新聞広告クリエイティブコンテストで 美術科教員と学生が受賞



こどもボウサイ
「あの時の元気かな？」

大迫弓菜
「もう一度見せたい。」

万江留璃
「あの時の元気かな？」

大迫弓菜
「もう一度見せたい。」

万江留璃
「あの時の元気かな？」



この「コンテストは大分合同新聞が「被災地にエールを。守ろう命を。」をテーマにした新聞広告を大分県内のクリエイターを対象に募集したもので、約50点の応募作品の中から5点が表彰されました。

この「コンテストは大分合同新聞が「被災地にエールを。守ろう命を。」をテーマにした新聞広告を大分県内のクリエイターを対象に募集したもので、約50点の応募作品の中から5点が表彰されました。

この「コンテストは大分合同新聞が「被災地にエールを。守ろう命を。」をテーマにした新聞広告を大分県内のクリエイターを対象に募集したもので、約50点の応募作品の中から5点が表彰されました。

この「コンテストは大分合同新聞が「被災地にエールを。守ろう命を。」をテーマにした新聞広告を大分県内のクリエイターを対象に募集したもので、約50点の応募作品の中から5点が表彰されました。

第2回大分合同新聞広告賞の贈賞式

が11月12日(日)にOPAMで行われ、新

聞広告クリエイティブコンテスト部門で本

学美術科西口顕専任講師属する「こと

もボウサイ」の「ボウサイのヒントは日常の

中に。」が最優秀賞

美術科「デザイン専攻

ビジュアルデザイナー1年生万江留璃

さん「あの時の元気かな？」と、大迫弓菜さんの「もう一度見せたい。」

が審査員特別賞を受賞しました。

この「コンテストは大分合同新聞が「被災

地にエールを。守ろう命を。」をテーマにし

た新聞広告を大分県内のクリエイターを

対象に募集したもので、約50点の応募作

品の中から5点が表彰されました。

Opera Piena di Vita 第24回公演 喜歌劇「こうもり」開催!



12月6日(水)、本学オペラサー

クル「Opera Piena di Vita」の第

24回公演となる喜歌劇「こうも

り」をichiko 総合文化センタ

音の泉ホールにて上演しました。

「こうもり」はヨハネ・シュトロ

ウスの作曲によるオペレッタの最

高傑作です。オペレッタとはオペラ

から派生した、軽妙な筋と歌によ

るカジュアルな内容の喜歌劇です。

学生たちの若い感性による、小

さな声と伴奏はさすが

素晴らしい歌声と伴奏はさすが

ました。劇中に挿まれる劇中歌も

素晴らしい感性による、小

さな声と伴奏はさすが

